

じんけん
くらしの扉 とびら

淡路市人教：No.51

『心の声』に
耳を澄ましましょう

アートの港 保宗 誠

私は恐れや不安を抱きやすい人間だ。30代、「ガラスのように壊れやすい心を持っているね」とよく言われた。私は自分が嫌いで、生きる自信がなかった。40代半ば、「生きる力」がすっかり枯渇した私は淡路島にUターンした。その直後のこと「感受性が強すぎて生きづらい人間には、芸術が助けになる」という言葉に出会った。ありのままの気持ちを絵画で表現する為に、胸に手を当てて、心の声に耳を澄ましてみた。すると「こっちを向いてくれて嬉しいよ」と言ってくれたように感じられた。その時を境に、私と心が通い合う作品が生まれ始めた。感受性が豊かなゆえに苦しんできた私が、今では、感受性を活かして3歳から90歳の方々に「寄り添う美術活動」をさせてもらっている。参加者の皆さんの個性溢れる作品、そして、無邪気で生き活きとしている姿、私はその両方から沢山のことを学んできた。「アートの港」では、観て、聴いて、触れて、嗅いで、味わった後で、自由気ままに楽しみながら作ってもらう。参加者同士の会話も弾み、自然と笑顔になる。非日常的な場には解放感も漂う。自分を出しきった作品を前にすると何ともいえない達成感に心は震える。作品に上手下手など一切ない。毎回、最後に行う鑑賞会は、一つひとつの作品、つまり、一人ひとりの作者を「ありのまま」に受け入れる大切な時間となる。芸術を通じて、ようやく自分を信じる力や生きる意欲を取り戻し始めた私。自分を認めて受け入れることが「生きる力」になっている。少しずつではあるが、認めあい受け入れあい尊敬しあう環境が形になってきた。この貴重な「つながり」を心から感謝している。

定期総会記念講演

「三重県のインターネット

差別表現モニタリングの取組」

公益財団法人 反差別・人権研究所みえ

常務理事兼事務局長 松村 元樹 さん

定期総会記念講演として、反差別・人権研究所みえ（ヒューリアみえ）常務理事兼事務局長の松村元樹さんに、インターネットにおける差別表現に対するモニタリング事業について、お話をいただきました。



講演会参加者感想より

●モニタリングの具体的な方法がわかってよかった。ネット上にある差別をこれから減らしていくために取り組む必要があると感じた。

●「誰かが見つけて消さないと、傷付く人が沢山でることでしょ。コッコミと根気のいる仕事ですが、続けて下さい。保育士として人を傷つけない子どもに育つ手助けをしなくてはと再認識しました。ありがとうございます。」

●インターネットを利用することがほとんどない私にとっては、恐いお話でした。いいように使えれば本当にすばらしいものなのでしょうが、情報が氾濫しすぎていることが問題としか思えません。そんなにたくさん知らなくてもいいのにね・・・です。

●現代のインターネット社会において、あらゆる情報がすぐに探し出すことができる反面、ホント、ウソの判断が出来ないことが今日の講演でわかったような気がします。全てを信じてはいけません。どこまで信じるかの判断は利用者のこれからの課題であり、この問題だけでなく色々な情報にもつながることだと思いました。

今回、講演をお願いした松村元樹さんが事務局長を務める「公益財団法人 反差別・人権研究所みえ」については、以下のURLをご覧ください。

公益財団法人
反差別・人権研究所みえ
ホームページ
<http://www.kenkyu-mie.or.jp/>
フェイスブック
<https://www.facebook.com/hurriamie/>